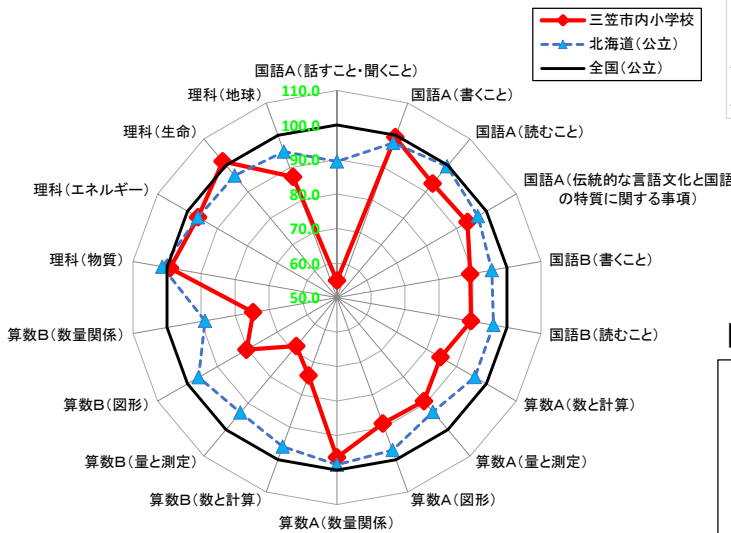


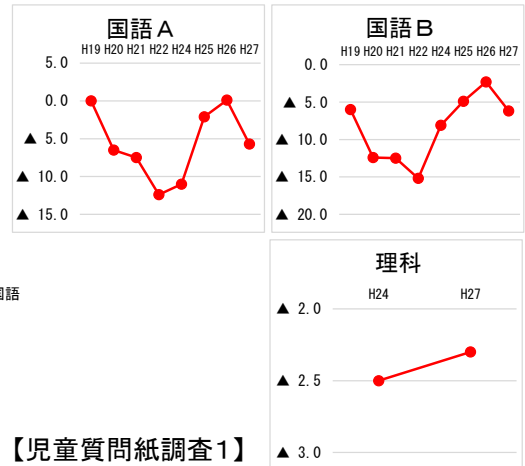
■三笠市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:2、児童数:55名)

【教科全体の状況】

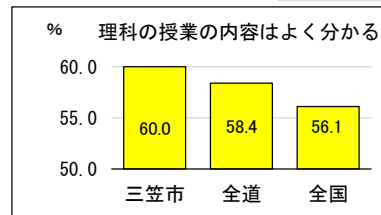
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



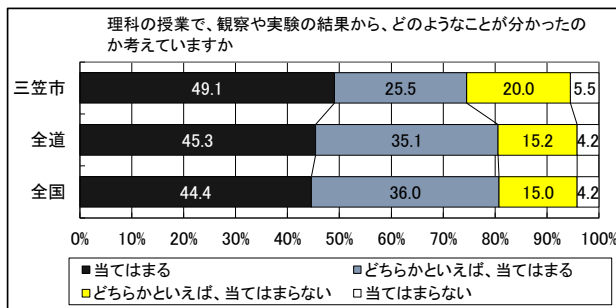
【平均正答率の全国との差の推移】



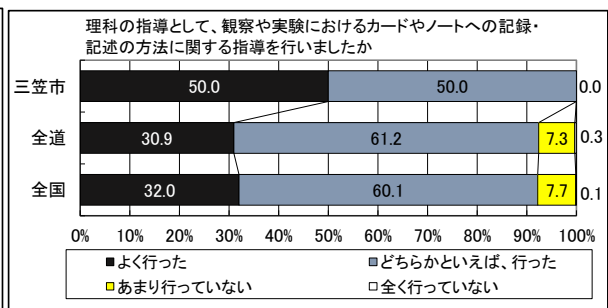
【児童質問紙調査1】



【児童質問紙調査2】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「書くこと」で他領域と比べて、全国に最も近い。 ○ 算数Aでは「数量関係」で他領域と比べて、全国に最も近い。 ○ 理科では「生命」で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科の授業で、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導をよく行った結果、児童が、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えるようになり、理科の「生命」で全国及び全道を上回ったと考えられる。 ○ 平均正答率の推移については、理科で思考力を高める指導を行った結果、児童が授業の内容がよく分かるようになり、全国との差が縮まってきたと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の指導として、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。 	

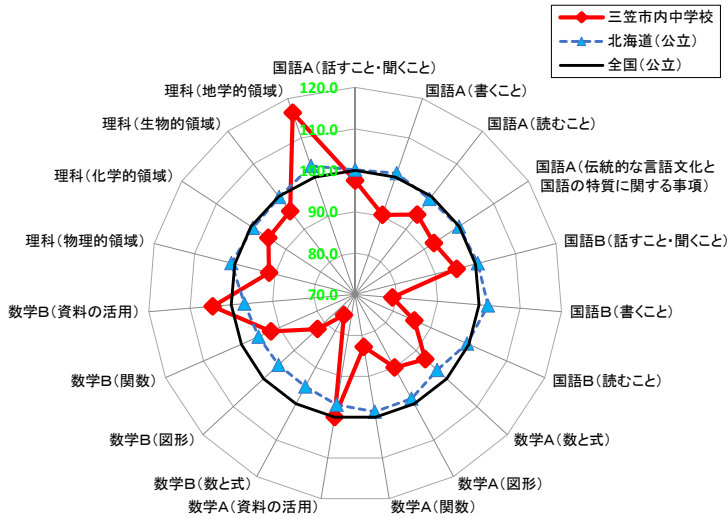
【三笠市の学力向上策】

- ◎ 全小・中学校において小中一貫教育の推進
- ◎ コミュニティ・スクールとして、学習支援ボランティアを活用した授業中の支援や教育活動の工夫
- ◎ 市教育研究所における研修会の充実

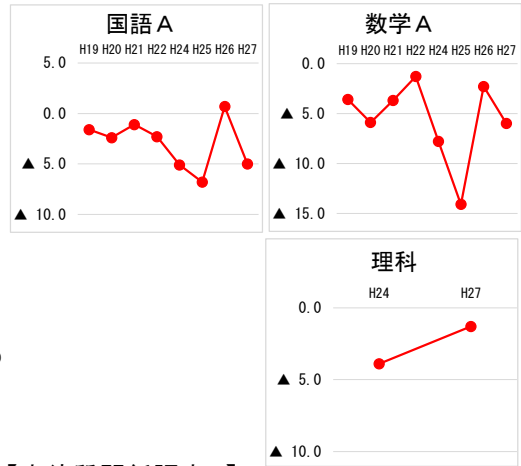
■三笠市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2、生徒数:46名)

【教科全体の状況】

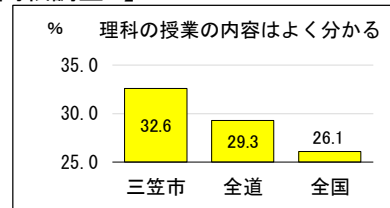
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



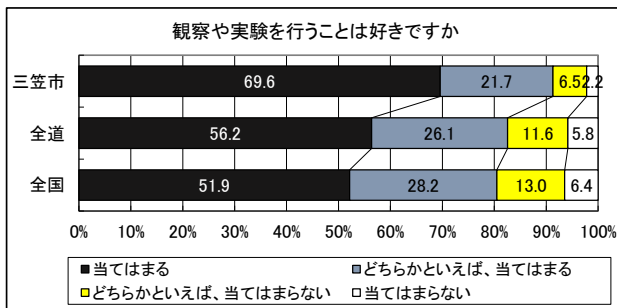
【平均正答率の全国との差の推移】



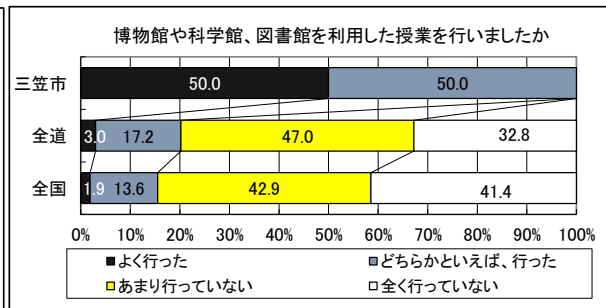
【生徒質問紙調査1】



【生徒質問紙調査2】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「話すこと・聞くこと」で他領域と比べて全国に最も近い。 ○ 数学Bでは「資料の活用」で全国及び全道を上回っている。 ○ 理科では「地学的領域」で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館や科学館、図書館を利用した授業をよく行った結果、生徒が観察・実験を好きになり、理科の「地学的領域」において、全国及び全道を上回ったと考えられる。 ○ 平均正答率の推移については、観察や体験を通して思考力を高める指導を行った結果、生徒が理科の授業の内容がよく分かるようになり、全国との差が縮まってきたと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。 	

【三笠市の学力向上策】

- ◎ 全小・中学校において小中一貫教育の推進
- ◎ コミュニティ・スクールとして、学習支援ボランティアを活用した授業中の支援や教育活動の工夫
- ◎ 市教育研究所における研修会の充実